

ベニコウジ黄色素

1. 食品添加物名

ベニコウジ黄色素 (Monascus yellow)

2. 基源・製法・本質

子のう菌類ベニコウジカビ(*Monascus purpureus* WENT.)の培養液を乾燥し、粉碎したものより、微温時弱塩酸酸性エタノールで抽出し、中和して得られたものである。主色素はキサントモナシン類である。黄色を呈する。

3. 主な用途

着色料

4. 安全性試験成績の概要

(1) 単回投与試験

急性経口LD₅₀はマウスで60g/kg超と考えられる¹⁾。

(2) 反復投与/発がん性試験

SD ラットを用いた強制経口(1、2、4ml/kg)投与による 90 日間の反復投与試験において、検体投与に起因する毒性学的影響は認められていない。無毒性量は4ml/kgと考えられる²⁾。

(3) 変異原性試験

ベニコウジカビ抽出液(主色素はキサントモナシン類)の細菌を用いた復帰変異試験の結果は、陰性と判断される³⁾。

(引用文献)

1. マウスによる急性毒性試験, 1982, 社内データ (未公表)
2. ハイムーンイエローSのラットにおける90日間経口投与による亜急性毒性試験, 1988年, 社内データ (未公表)
3. ハイムーンイエローSの微生物を用いる変異原性試験, 1984, 社内データ (未公表)